



未来へつなぐために。

お得なサービスがあれば
利用者が増えるかも!

段差のない
バスは安心だなあ

住宅街の狭い道でも
来てくれる移動サービスは
とても便利だね

出産サポート
タクシーは
心強いわ!



みんなで乗ろう公共交通

猪名川町には路線バス、鉄道、タクシーなどの公共交通があります。

皆さんは、いつもどれくらい利用していますか?

公共交通の現状や事業者の現状を紹介しています。

猪名川町内を走る公共交通について考えてみませんか?



猪名川町地域公共交通会議

便利・お得な情報

妙見の森フリーパスの企画乗車券(能勢電鉄)

好評につき、2022年度も「妙見の森フリーパス」が発売されます。
日生中央駅から「妙見の森」まで通常の往復料金だと2,140円ですが、「妙見の森フリーパス」だと1,200円で940円もお得になります。また、ご優待施設での各種特典が付くのでさらにお得になります。



妙見の森フリーパス
(能勢版): 1,200円

■日生中央駅から「妙見の森」まで通常の往復料金

交通機関	往復通常料金
能勢電鉄(日生中央駅~妙見口)	540円
妙見の森ケーブル(黒川~ケーブル山上)	800円
妙見の森リフト(ふれあい広場~妙見山)	800円
合計	2,140円

940円もお得
各種特典で
さらにお得♪



詳しい情報は能勢電鉄HPへ!!

猪名川町出産サポートタクシー(日の丸ハイヤー)

猪名川町では、出産が迫った妊婦を優先的に医療機関に送り届ける「出産サポートタクシー」の事前登録を行っています。

この事業は、事前に必要事項をタクシー会社に登録し、陣痛が起きたタイミングでタクシー会社に連絡をすると優先的に出産予定の医療機関へ送り届ける仕組みになっています(※利用時には通常のタクシー料金をご負担いただきます)。



出典:猪名川町事業パンフレット

お問い合わせ先 >> 猪名川町 生活部 こども課: 072-767-7477



出産サポートタクシーは
このマークが目印!!



詳しい情報は猪名川町HPへ!!

町内居住高齢者に対する助成(hanicaグランドパス)

70歳以上で1年以上猪名川町に住んでいる方は、阪急バスが販売する「hanicaグランドパス」を助成金額を差し引いた金額で購入できます。

詳しくは、猪名川町福祉課窓口にお問い合わせください。

事業名称 高齢者外出支援事業

対象者 猪名川町に住んでいる
70歳以上の方

※申請時点で1年以上町内に住んでいる方が
対象です

助成金額 1年定期を購入の場合、最大2万円
※所得区分によって助成金額は変動します
※助成を受けるためには、hanicaグランドパス
購入前に猪名川町へ申請が必要です



猪名川町内だけではなく、
京阪神エリアを運行する阪急バスや
阪神バスも利用できます!



お問い合わせ先 >> 猪名川町 生活部 福祉課: 072-766-8701

詳しい情報は猪名川町HPへ!!

発行 猪名川町地域公共交通会議
(事務局: 猪名川町 まちづくり部 都市政策課 072-766-8704)





阪急バス株式会社
自動車事業本部
営業企画部 計画課長
田中 祥敬さん

阪急バス

需給バランスの適正化を行わざるを得ない状況

町内の全ての路線が赤字

阪急バスは、昭和初期から猪名川町内で運行を開始し、猪名川町の住宅都市としての発展とともに歩み続けてきました。

乗客数は昭和45年の約1400万人/年をピークに令和元年は約860万人/年、令和2年は約660万人と減少しています。新型コロナウイルス感染症の拡大が影



猪名川町の公共交通の実情

～猪名川町内を運行する交通事業者へのインタビュー～

猪名川町では、能勢電鉄と阪急バス、日の丸ハイヤーが地域の公共交通を支えています。人口減少により利用者が減少している中、公共交通事業者の運営状況は厳しい状況が続いています。今回、各社に利用状況や運営状況、それに対して実施している取り組みや今後の方向性等についてお話をお聞きしました。

これからも利用していただくために

阪急バスでは、皆さまにバスをご利用いただけるよう町と協議しながら取組みを行っていますが、生活の基盤である公共交通は、利用者だけでなく、沿線地域の皆さまにも支えていただければ、うれしいですね。

能勢電鉄

厳しい経営状況が続くと、ダイヤの見直しや減便も

日生中央駅の利用者は平成7年をピークに減少傾向に

日生中央駅は、昭和53年12月の日生線(日生中央・山下関)の開業とともに猪名川町の玄関口として営業を開始し、駅周辺のまちづくりに併せて発展してきました。

しかし、同駅の乗降客数は、平成7年の1.52万人/日をピークに、少子高齢化による影響等で減少傾向にあります。

令和2年は新型コロナウイルス感染症の拡大による影響で、0.9万人/日とピーク時の約60%まで落ち込んでいます。

厳しい現状に対する対応

緊急事態宣言が解除され、利用者数は回復傾向にあります。テレワークやオンライン授業等、生活様式の変化により、今後もコロナ前の利用者数までは戻らないと考えています。

このままの状況が続くと経営が

日の丸ハイヤー

利用者の減少により、悪循環への対応に苦慮

町内での事業規模を縮小せざるを得ない状況に

日の丸ハイヤーは、猪名川町内では主に日生中央駅を拠点に営業しています。

日生中央駅の利用者が減ったことで、利用者は大きく減少しています。

また、新型コロナウイルス感染症の拡大による影響で、外出する機会が減りさらに利用者が減少しています。

経営面でも乗務員の高齢化が進んでおり、新たな乗務員を確保しないといけないのですが、利用者が減ることで、収入が減少し、投資できる人材育成費も減るなど、悪循環への対応に苦慮しています。

タクシーならではの取組み

タクシーは、利用者の移動ニーズに1対1できめ細やかに対応する事業です。

日の丸ハイヤーでは、スーパー等で買い物を買った際の荷物の運搬



能勢電鉄株式会社
鉄道事業部 副部長 兼 運転課長
東山 仁さん

厳しくなり、ラッシュ時間帯をはじめ10分間隔で運行している昼間時間帯の現行ダイヤについて、減便や見直しを考えなければなりません。

皆さまに乗り続けていただける鉄道として

能勢電鉄では、猪名川町とともに、日生中央駅周辺のにぎわいづくりに向けた連携も重要であると考えています。

日生中央駅周辺のまちのにぎわいづくりをはじめ、公共交通の利用を促進する仕組みを構築できるように町とともに取り組んでいきたいですね。

また、猪名川町と連携して、陣痛時に優先的に出産予定の医療機関へ送り届ける「猪名川町出産サポートタクシー」の取組みを令和元年7月より開始しています。

これからも持続可能な公共交通として

コロナ禍による需要減少は出口が見えない状況ですが、持続可能な公共交通体系の仕組みを構築できるよう、これからも行政とともに連携して取り組んでいきたいですね。



日の丸ハイヤー株式会社
代表取締役
暮部 満昭さん



これからの公共交通を考える



～猪名川町における持続可能な公共交通に向けた取組みの代表者へのインタビュー～

猪名川町の公共交通の実情を踏まえ、公共交通が無くなることによる影響やこれからの公共交通のあり方、事業者だけでなく、行政や住民との連携等について、学識経験者や猪名川町長にお話をお聞きしました。



猪名川町長
岡本 信司

平成30年の公共交通に関する住民アンケートで、「バス等を維持・充実させるために、町が経費を負担すること」を伺ったところ、90%以上の方が、経費を負担することを容認されていることがわかりました。

「地域の足は、みんなで守る」という発想の転換が必要
あつて当たり前が通用しない時代へ

しかし、公共交通を維持するために、利用者が少ないまま、赤字を前提とした事業を続けていくことが、

車移動が中心の方にとっては、バス等の公共交通の必要性は低いのかも知れません。車を運転できる今は自分事として考えにくくても、子や孫がバス等で通学することになったときや、自分や親が高齢になったときに公共交通がなくなっていくらどうでしょうか。

行政や交通事業者などが単独で取り組むのではなく、まずは住民の皆さんに利用していただくことが一番大事です。

「普段におけるバスの利用状況」についての質問で、約70%が利用しなかったことがわかりました。

公共交通の先進地であるヨーロッパでは、公共交通を公共が支

え、さらには高齢者の健康維持には、歩くことが一番良いとされており、歩行速度の低下と健康寿命に相関関係があることも分かっています。

公共交通とまちづくりはにぎわいの創出に密接な関係がある



近畿大学
理工学部准教授
猪名川町地域公共交通会議 会長
柳原 崇男さん

他人事ではなく自分事として捉える

日常生活の移動を支える役割を担う公共交通

猪名川町では自家用車を利用する人が多いことに加えて、近年の少子高齢化の影響から通勤・通学者が減少し、公共交通機関を利用する人が減っています。

公共交通の先進地であるヨーロッパでは、公共交通を公共が支

え、さらには高齢者の健康維持には、歩くことが一番良いとされており、歩行速度の低下と健康寿命に相関関係があることも分かっています。

公共交通とまちづくりはにぎわいの創出に密接な関係がある

次ページ以降に、「猪名川町地域公共交通計画」の概要を紹介しています。

また、猪名川町での公共交通の取組みや猪名川町地域公共交通計画の内容など、町ホームページで確認できます。

ホームページも見てね！



猪名川町
マスコットキャラクター
「いなぼう」



詳しくはこちらから
(猪名川町HP)



将来を見据えた取組みを実施

猪名川町では、新たに公共交通を「社会的なインフラ(＝公共基盤)」として位置づけ、将来の公共交通のマスタープランとなる「猪名川町地域公共交通計画」を3月に作成しました。

今後、猪名川町にある公共交通それぞれが役割分担を行い、全体的に連携強化を図り、将来にわたって持続可能な公共交通になるように、公共交通を「乗って支える」意識化事業など、計画に基づいた事業を実施していきます。

